

## みんなに読まれる議会だよりの 編集方法とは 広報特別委員会



▲東京都あきる野市

東京都あきる野市では、議会の審議結果の記事は最小限にして、議会審議とは関係のないまじ情報の特集したり、表紙の写真を工夫するなど、手にとってもらうことを優先していました。

議会という組織の中では、小さなことを変えるのも困難なので、超党派議員と事務局で「議会だより調査研究会」を立ち

上げ、全国の議会だよりの比較を市民にしてみました。あきる野市の議会だよりがよいという市民はいませんでしたが、これが改善のスタートだったそうです。こうした議会だよりでも良いのだと目からうろこでした。

### ■なぜ議会広報公聴を常任委員会化したのか

神奈川県小田原市では、平成25年に「議会基本条例」が施行されたのをきっかけに「広報公聴の充実」の重要性を議会全体が持ち、常任委員会化をすることにより、議会全体の意識改革を行いました。

愛西市議会は、まだ特別委員会のままでですので、今後の課題です。

## 議員研修会

### タブレットを使って

### 自治体の会計を学ぶ



去る11月27日、ICTを活用した議会運営の第一歩として、このところ地方議会での導入が目覚ましい「タブレット端末」を使用した議員研修会を実施しました。

現在、県から市に派遣されている企画政策部参

事に講師をお願いし、実際にタブレットを使いながら自治体の新公会計制

度について勉強しました。市の財務書類4表(貸借対照表・行政コスト計算書・純資産変動計算書・

資金収支計算書)の見方を中心に、財産の動きや

他市町との比較の仕方など、いずれも今後の行政をチェックしていくうえで必要不可欠な内容ばかりでした。

当日は、タブレット端

末に初めて触れる議員

も多く、取り扱いにも

苦戦しました。また、来るペーパーレス化時代に向け



トの必要性、並びに利便性も実感しました。今後タブレットの導入について研修会を積極的に開催し、勉強していきたいと思えます。

## 全国都市問題会議に参加し、沖縄県那覇市へ



昨年11月9日から10日の2日間、全国市長会、日本都市センター及び那覇市の共催による「全国都市問題会議」に、正副議長が参加しました。

全国から2200余名が出席し「ひとつがたなく都市の魅力と地域の創生戦略〜新しい風をつかむまちづくり〜」を大会ス

ローガンに意見交換会が催されました。

初日は東京大学の山本博文教授による「多様性のある江戸時代の都市」を演題とした基調講演

と、開催市の那覇市長による「ひとつがたなくまち」についての主報告がありました。

二日目は早稲田大学の

後藤春彦教授をコーディネーターに、福井県勝山市長をはじめ全国から4人のパネラーを迎え、大会スローガンをテーマにパネルディスカッションが行われ、様々な議論が飛び交うなど大変有意義な研修となりました。